

平成29年 8月28日
水管理・国土保全局砂防部

平成29年7月九州北部豪雨は過去最大級の流木災害

～今回の災害と流木の記録がある土砂災害との比較を行いました～

平成29年7月九州北部豪雨における発生流木量と既往土砂災害（平成23年那智川や平成25年伊豆大島等）における発生流木量との比較を行い、過去最大級の流木災害であることが判明しました。国土交通省では、流木による被害を減少させるため、砂防事業による流木対策を強力に推進していきます。

- 平成29年7月九州北部豪雨における流木災害が顕著であったため、一般的な土石流災害における発生流木量との比較を行いました。
- 具体的には、九州地方整備局が発生流木量を算出した流域内にある土石流危険渓流において発生流木量を算出し、技術指針[※]に掲載されている過去の災害における発生流木量のデータ等とあわせてグラフ上で整理しました。
※ 砂防基本計画策定指針（土石流・流木対策編） 解説 平成28年4月
- その結果、過去の災害における単位面積あたりの発生流木量は概ね1,000m³/km²程度以下でしたが、今回の災害では288溪流中、約半数の134溪流が1,000m³/km²を超えて流木が発生し、また最も多い赤谷川の溪流ではその約20倍に達するものがあるなど、過去最大級の流木災害だったと言えます。
- 国土交通省では、今後とも流木災害の実態把握に努めるとともに、流木による被害を減少させるため、砂防事業による流木対策を強力に推進していきます。

【参考】

平成29年7月九州北部豪雨による土砂災害の概要

http://www.mlit.go.jp/river/sabo/h29_kyushu_gouu/gaiyou.pdf

平成29年7月九州北部豪雨に伴う流木発生量（速報値）について 平成29年7月28日

http://www.qsr.mlit.go.jp/press_release/h29/bousai17072801.html

<問い合わせ先>

国土交通省 水管理・国土保全局 砂防部 砂防計画課

課長補佐 瀧口 茂隆 (内線36136)

深層崩壊対策係長 後藤 健 (内線36135)

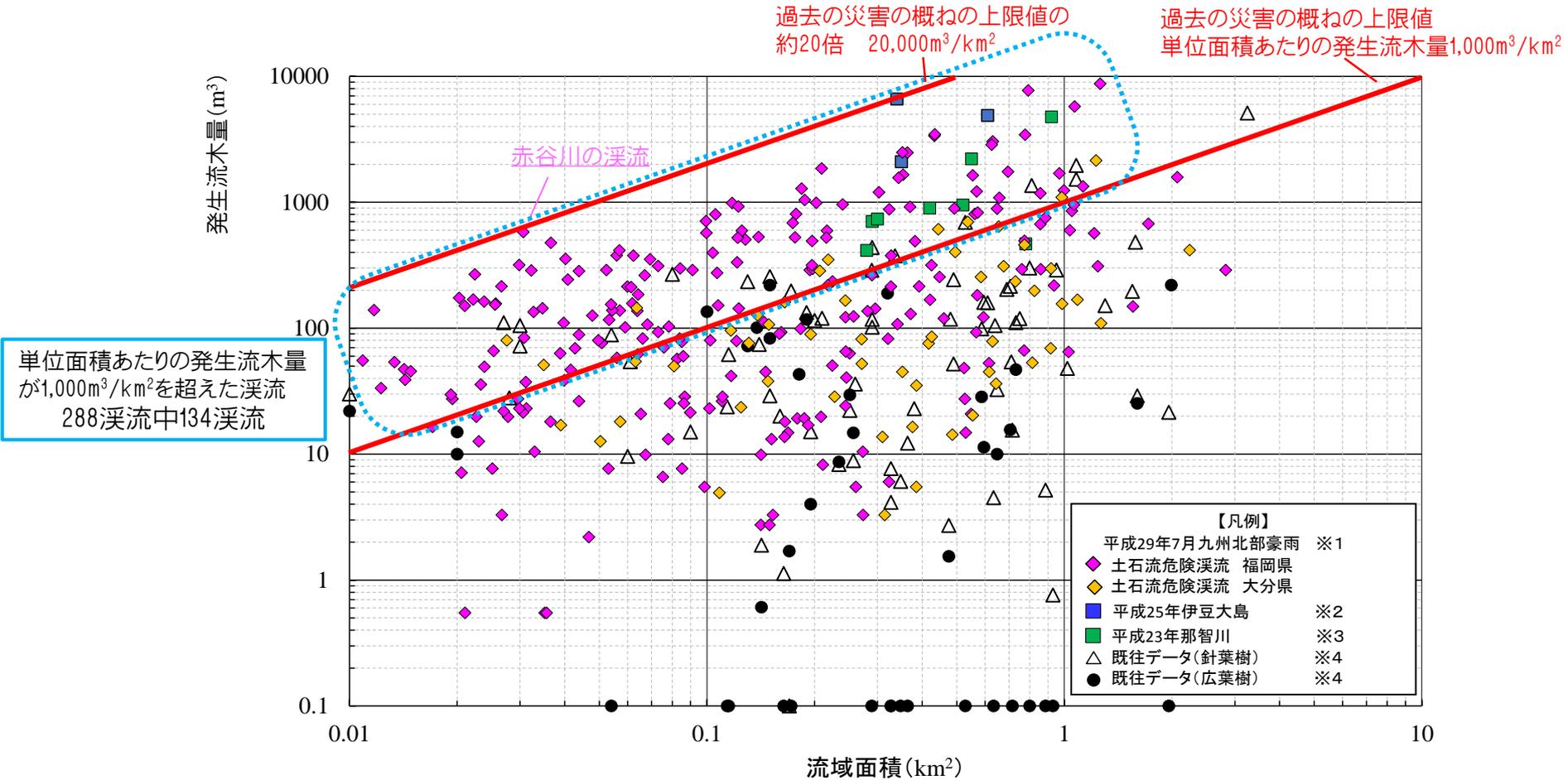
電話 代表 03-5253-8111

直通 03-5253-8466

FAX 03-5253-1610

平成29年7月九州北部豪雨と既往災害の発生流木量の比較

- 今回の災害は、流木の記録がある土砂災害の中で、最大級の流木を伴う災害であった。
- 過去の災害では、針葉樹の単位面積あたりの発生流木量は概ね $1,000\text{m}^3/\text{km}^2$ 程度以下であるが、今回の災害では、例えば最も多い赤谷川の渓流ではその約20倍近くに達するところがあった。
- 福岡県と大分県を比較すると、福岡県の流木量が多い。



単位面積あたりの発生流木量が $1,000\text{m}^3/\text{km}^2$ を超えた渓流
288渓流中134渓流

【凡例】

平成29年7月九州北部豪雨	※1
土石流危険渓流 福岡県	◆
土石流危険渓流 大分県	◇
平成25年伊豆大島	■
平成23年那智川	□
既往データ(針葉樹)	△
既往データ(広葉樹)	●

※1 土石流危険渓流を対象とした九州地方整備局の調査
 ※2 伊豆大島土砂災害対策検討委員会報告書(平成26年3月)(流域面積は国土交通省算出)
 ※3 黒岩ら,平成23年台風12号土砂災害における和歌山県那智川支流の流木の発生と流出実態(2016, 第8回土砂災害に関するシンポジウム論文集)
 ※4 砂防基本計画策定指針(土石流・流木対策編)解説